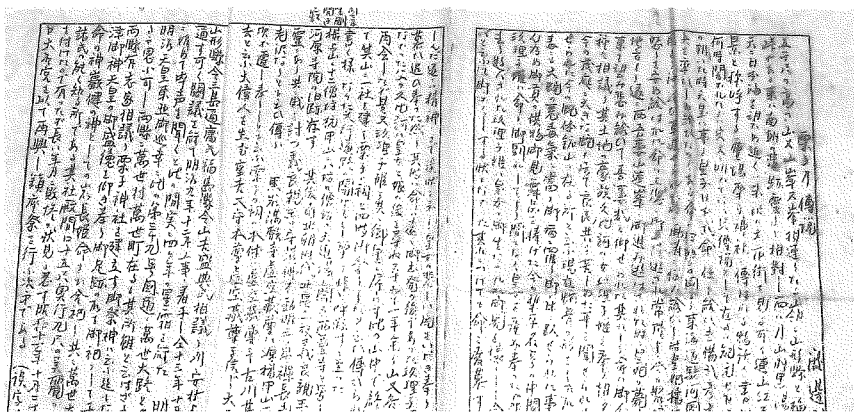




昭和11年改築記念絵はがきより 左端：駐輦碑 真中：栗子隧道碑記 右端：栗子神社碑
(我妻清治氏 蔵)



昭和11年記の栗子の伝説 (渡邊利一 記)

栗子の伝説と豊受姫尊神社の飾り金具

萬世の大路

第21号

平成29年3月1日発行

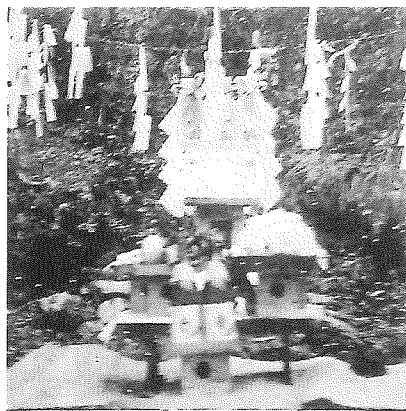
発行者

歴史の道 土木遺産 万世大路保存会
会長 梅津幸保

事務局

万世コミュニティセンター
☎0238-28-5381

題字は村山道雄 元山形県知事



栗子神社 奥の院 (記念ハガキより)

三島県令が栗子隧道工事の完成を願って建立したとされる豊受姫命を祭神とする神社には、上杉鷹山と大久保利通が祀られた。

この神社は本殿が間口十五尺、奥行き九尺、別に拜殿三尺四方の神床付であった。(昭和十一年十一月二十四日渡邊利一記)

昭和十一年(一九三六)自動車道として万世大路が大改築された時、朽ち果てた神社を焼却し、新たに明治の隧道入口に石造りの栗子神社が建立された。この神社には上杉鷹山、大久保利通、三島通庸が祀られている。

平成二十八年九月十九日、栗子隧道碑記や栗子神社、明治大帝駐輦の碑のあった跡地に標柱を建立した日に、豊受姫尊神社の跡地を確認したところ神社の飾り金具と思われる遺物が見つかりました。飾り金具は約五センチ四方で、銅版で加工されていて、草花模様が刻されています。

また昨年八月三十一日に地元の家から借用した文書の中に栗子の伝説と謄写印刷された一葉が見つかりました。これは神話で、日本武命が東夷成敗の為紀元七百七十年景行天皇四十年、西吾妻にはいられたとき茂庭の方で住民を悩ませている大蛇を退治したところ、大蛇の毒気が体に入り寝込んでしまった。それをお世話した地元の豪族玖比訶の娘玖理子姫が朝な夕なお世話しているうちに身ごもったという。その後日本武命は亡くなったが、玖理子姫は皇女を産んだという。間もなく皇女も亡くなったが、その屍を懐して玖理子姫は命を探したが見つからず、玖比訶も共に探したが共に皆亡くなったという。村人は悲しんで栗子神社を祀ったというものである。此の神話に出て来る蛇体鉾山や長老沢や梨平名号や初穂塚などの地名が福島側に残っているとのことである。福島側にはそれらしき伝説はあるが、米沢側では初めて聞く伝説であった。